2019 年度事業計画
（2 019年 4 月 1 日から 2 02 0年 3 月 31 日）

◎活動計画概要

■全体総括　　理事長：田中一雄

翌年に迫った東京オリンピック・パラリンピックにむけて、日本経済も活力を維持しつつ活動を続けている。このような中、社会を創るインダストリアルデザインの役割も、更に重要性を増しているところである。2019 年度においても、公益社団法人としての社会的価値を更に高めつつ、価値ある協会を強化推進していくことを事業目標とする。

具体的には、日本経済の根幹である企業活動におけるデザイン価値向上を推進するため、インハウス活動の強化を進める。また、100 年に一度の大変革と言われるように大きく社会が変容しているなか、イノベーションやコト創りを包含する 21 世紀型のデザインへとシフトチェンジしなくてはならない。その為には、協会組織の若返りを促進し、次世代化を推進しなければならない。さらに、協会に所属する人材によるビジョン・コミッティを組織し、次なる組織変革の理念構築をおこなう。これらの事業を通じて JIDA の社会的価値を高め、世界的課題となっている SDG’ s のデザインによる達成に貢献して参りたい。

■2019 年度の活動骨子

・次世代人材の育成強化

多様な JIDA 活動において若手の活動場面を増やし、協会体質の変革を推進する。その為には、組織人事体制の刷新を進めるとともに、活動支援のために必要とされる予算措置を実施していく。

・デザインミュージアム事業の連携強化

昨年で、JIDA デザインミュージアム・セレクション事業は第 20 周年を迎え、特別事業を実施した。本年度は、2020 文化イベントなども視野に入れつつ、D8 とも連携を更に強化し、ジャパンデザインミュージアム活動にも積極的に参画していく。

・企業内デザイナーとの交流と連携

インハウス委員会活動を強化し、これまで以上にインハウスデザイナーとの連携を強化していきたい。毎年「インハウス女性デザイナー研究会」による研究活動と発表が行なわれているが、今までの製造業中心の参加から、サービス産業にも広げた活動を行なう。さらにサービスデザイン、ソーシャルデザインなど、モノだけではない「コトのデザイン」というデザイン領域の広がりにも対応していく。

・受託事業の強化推進

「人と社会に必要とされるインダストリアルデザイン」の思想性と役割を、広く社会に広めていくために各種の研修プログラム等を構築し、受託事業として活動を強化していく。

・調査・研究事業の再構築

スタンダード委員会により発刊している、サンプル帳の充実を引き続き進め、社会のニーズに応える協会サービスを充実させていく。また中国への頒布・普及にも、引き続き尽力していく。

・教育活動の充実

これまで継続的に時視しているプロダクトデザイン検定を、今後も推進し広く社会にデザインの価値を普及させていく。また、デザイン学会やデザイン教育界との連携を強化し、JIDA の教育活動の幅を広げ、社会的な価値を高めていく。

・各種セミナー・体験活動事業

デザインの普及啓発及び教育目的のセミナーおよび体験活動事業は、JIDA の活動の柱である。今後ともさらに魅力ある企画の立案に注力し、広く一般や海外にも門戸を広げた参加者にデザインの価値を訴えていく活動をさらに強化していく。

＜センター活動＞

●内務委員会

今年度は前年度のデザインミュージアム・セレクション事業の 20 周年記念事業後の新たなスタート、JIDA サンプル帳の新規刊行、プロダクト検定 1 級用教科書の改定が予定され、また引き続き海外受託事業もある。在庫管理等資産的には増加するその管理に目配せをしたい。

＜財務部会＞

財務的には、より一層事務局との連絡と連携を強化し、収支バランスを短スパンで監視していく必要がある。

＜総務部会＞

新たな選挙制度による理事会体制と共に、協会に寄与する運営（規約類、ルール）の有り方を検討・提案する。

●広報委員会

＜情報部会＞

1．公式 Web サイト（http:/ /www.jida.or.jp）のさらなるリニューアルと運営。JIDA 公式 Web サイトで、委員会と連動したサービスの継続。
2．Who's who（会員個人情報サイト）のリニューアル。
3．JIDAWeb マガジンの運営と更新。
4．JIDA メールマガジンの発行。
5．JIDA 公式 Facebook、を用いた広報活動の継続。Facebook 会員専用のサービスグループの管理運営。

＜出版部会＞

1．JIDA アニュアルレポート２０１８年度版の発行。
2．他媒体での JIDA 発信。季刊誌カースタイリング JIDA ページへの記事提供の継続。
3．会員同士のスムーズでタイムリーな情報交換のために、冊子 Face Letter の発行。
4．JIDA アーカイブ資料のデジタル化推進。

●渉外委員会

1．中国 Design Intelligence Award, DIA 2019 受託事業（杭州市中国美術学院）
　JIDA 推薦作品を 5/28 までに連絡。最終審査・表彰式【9 月】。
2．美的集団デザイン研修事業（中国広州仏山市）
　前年度に続き第 2 フェーズ 4 回実施予定【5、 7、9、10 月】・各回 30 名、
3．Asia Design Assembly, ADA 理事長会議（台湾）参加【8 月】
　JIDA より 2~3 名派遣予定。
4．TEDA Cup（中国天津市経済開発特区・学生デザイン賞）協力事業
　審査員 1 名派遣予定。最終審査【9/27-29】、表彰式【11/14-17】
5．World Design Organization, WDO 総会（インド Hyderabad）参加【10/11-12】
　JIDA より 1~2 名派遣予定。理事選挙あり。
6．中国厦門市 KINGATHER 社受託事業
　デザイン人材の推薦・セミナー事業。不定期。
7．セミナー事業
　1~2 回。会場未定。参加人員各回 40 名程度。
8．企業見学会
　1 回。会社未定。参加人員 30 名程度。

●インハウス委員会

・ソーシャルイノベーション紹介（賛助企業の社会課題解決）
　デザイナーの役割がモノ（製品）からコト（サービス）を経て、SDGs や Society5.0 のパラダイムシフ

トに挑むインハウスデザイナーたち。先端を垣間見る賛助企業の取り組みとデザインが導く未来を知る。

①エネルギーソリューション（6 月）

スマートシティ、スマートエネルギー、防災・資源探索を指せるエレクトロニクス。

②ロジスティックスソリューション（9 月）

複雑化する物流・消費の最適化。材料とゴミなど環境処理を支えるモビリティ。

③ヘルスケアソリューション（12 月）

超高齢化、医療・介護費増大、医師不足を埋めるソリューションが注目されている。

・カーデザインセミナー

学生の啓蒙を目的にしたセミナー＆ワークショップ。賛助企業に協力を得てデザインプロセス、デザインマネジメントなどを紹介予定。

・第 33 期インハウス女性研究会活動の支援（３月）

若手インハウスデザイナーの教育と啓蒙を目的にしたセミナー＆ワークショップ。

年間 12 回のプログラムでは賛助企業を訪問して施設に触れ文化を発見・体験する場づくりは異業種の発想に触れる貴重な機会となっている。マインドセットにも大きく影響する共創活動として人気がある。（見学会とワークショップ：年間１０回、報告会１回）

●職能委員会

＜職能部会＞

1．委員会委員の拡充

デザイン成果物の権利保護（知財）、デザイン契約、事業環境のインフラ整備など、インダストリアルデザイナーが抱える課題が共通すること、重複して委員となっているメンバーが存在することから、ブロックのビジネスデザイン研究会有志を委員として加えることで活動の幅を広げる。また、インハウス会員の委員が皆無であることが課題であり、その募集、勧誘活動は通年で継続していく。

2．日本弁理士会・意匠部会との研究会

①弁理士会＋JIDA 合同セミナー（2017 年の東京地区開催に続き、大阪で開催予定）

内容は、創作保護の入門編ではなく、東京と同じく実務的なものとする。

②研究会活動のテーマが絞り込めないなど課題もあるが、立場の理解、権利に関わる

文言表現など理解促進のため、意見交換の場としても続けていきたい。

3．委員会サイトの開設による情報発信。

4．セミナーの開催

「意匠法改正」、「クラウドファンディング」などを企画し開催予定。

5．会員向け知財相談窓口「DP ホットライン」の運営（弁理士・内野委員）

6．行政との連携事業

ビジネスデザイン研究会が進める事業への協力（TAS K 事業など）

＜資格部会＞

ACCREDIT 委員会の設立目的であった職能資格認証制度の再検討とその制度の前段にあたる PD 検定の普及、およびその事業環境の整備が目標。ただ、資格制度の再検討には相当のリソースが不足するため、しばらくは PD 検定事業の推進による活動基盤の構築が主な活動。

1．PD 検定事業

PD 講座・PD 検定の認知度向上、受験者数の 300 名超え（昨年度、216 名）を目標に普及推進を図る。学校向けに「PD 基礎講座」「教科書採用＋PD 検定受験」の提案、地方公共団体に向けた「デザイン普及講座」の提案・・・などの活動。デザイン学会への出展だけでなく、JIDA 学校関係の会員や専門学校への案内･説明の機会を広げる。

2．関連出版事業

「プロダクトデザイン」（赤本：PD検定１級の公式テキスト）は出版して10年目を迎える。昨年度にスタートした改訂版の執筆編集作業は 8 月脱稿、10 月に出版を予定。その後は公式テキストの改定に伴い、検定問題の見直しと問題集などの整備の検討。

・資格制度とキャリア構築に関する情報収集
デザイン業界の環境変化に伴う資格制度の必要性について、他分野の資格制度を把握すると同時に、会員、協会関係者からの意見聴取など情報収集を継続。

●教育委員会

1．ADA(Asia Designers Assembly) 国際学生デザインワークショップ
（1）2019/8/ 11 ～ 17 の一週間、台湾・屏東で開催する予定。
（2）参加国は日本、台湾、韓国、香港、マカオ、インド、シンガポールの予定。
（3）日本全国から募集し、15 ～ 20 名参加学生の見込み。

2．学生交流会
（1）過去 4 回開催した留学生交流会の経験に基づき、拡大して日本学生をも対象とする。
（2）学生支援事業として、情報交換の場を提供。
（3）上半期関東、下半期関西、計 2 回開催する予定。
（4）関東 30 名、関西 25 名の留学生参加を目標。

3．「現場を知る」セミナー
教育機関キャリア教育の支援する事業として検討する。

●スタンダード委員会

＜セミナー部会＞
新しい素材・加工等の情報に加え、頒布のサンプルズ、キッズデザイン研究成果の理解・利用推進のための勉強会を計画、。勉強会開催　3 回＋α。

＜サンプル部会＞
・JIDA STANDARD SAMPLES の頒布　予想頒布数量　合計 94 冊
「1」：18 冊、「2」：15 冊、「3」：6 冊、「4 A」：20 冊、「4 B」：25 冊、「5」：10 冊
2019 年度は「4B」が加わることで JIDA サンプル事業全体が好循環に転ずる年としたい。今年度まではまだ「4 B」関連の仕入れが発生するため、収支的にはほぼゼロを見込むが、次年度以降はしばらく余裕のある状態に戻る予想。
・KIDS DESIGN TOOLS の頒布　予想頒布数量
子どものからだ図鑑：5 冊、子どものからだパスデータ集：4 冊、2.5Dキッズパーツ：3 セット、2D キッズモデル：3 セット、3D キッズモデル：2 セット

＜キッズデザイン部会＞
・産総研と消防庁との研究活動　2 か月に 1 度の勉強会を継続
・発表事業　デザイン学会春季研究発表大会のオーガナイズドセッションに参加予定
6 月 29 日～３０日のいずれか、名古屋市立大学
・事故予防製品の商品化事業
産総研と共同開発中の幼児の耳つき事故を防止する「あんしん･みみかき」を貝印と商品化するために、デザインや機能検証を行う。

＜展示・発表事業＞　（サンプル部会・キッズデザイン部会）
・日本デザイン学会春季大会への出展
2019 年度も日本デザイン学会の春季大会に出展し、JIDA STANDARD SAMPLES と KIDS DESIGN TOOLS を展示する計画。6 月 29 日～３０日、名古屋市立大学

●デザインミュージアム委員会

デザインミュージアム委員会には大きく 2 つの事業があり、ミュージアム事業は今迄に収蔵した製品を、年間を通じて東京、長野、大阪にて巡回展、企画展、常設展を計画。セレクション事業は後世に残すべき優れた製品を収集し、デザインの普及啓発活動を行う事を主に、デザイン図録発行と毎年 1 月に予定する AXIS ギャラリーでの展覧会を計画。

・デザインミュージアム in AXIS 常設展
2019 年 4 月～ (年 3 回)、会場：JIDA ギャラリー
・デザインミュージアム in 信州新町
2019 年 4 月～（年 3 回：セレクション巡回展、企画展、常設展）、会場：ミュゼ蔵 2 階
・デザインミュージアムフェスティバル 第 22 回
2019 年 9 月、開催場所：長野市信州新町
・デザインミュージアム セレクション Vol. 21 in TOKYO
2020 年 1 月中旬、会場：AXIS ギャラリー
セレクション図録：2,300 部
図録配布先：国内 1,300 箇所、海外 70 箇所 (主要関係団体、図書館、美術館、学校等)
石橋財団助成金：4,300,000 円
デザインフォーラム：（2 回）
・デザインミュージアム支援会
デザインミュージアム活動通信及び支援会参加のお願い (年 2 回)

＜ブロック活動＞

●東日本ブロック

前年度は比較的小規模なセミナー・ワークショップを多く企画開催した。しかし運営側の負荷が大きいという声が多かった。新年度は旧年度の反省を活かし選択と集中で効率よく充実した運営を行うよう求めたいまた、リニューアルされたセンターの WE Bシステムを活かし、東日本ブロックの広報機能をより向上させてもらいたい。

在任の 2 年間で、シニアと学生の JIDA への参加のあり方を模索し続けたがまだ道半ばで、引き続き知恵を絞り JIDA の活性化、求心力向上に繋がる活動を望みたい。

・６月　総会
・８月　キッズワークショップ
3 年目になる子供向けワークショップ。プラレールをベースに自由に車両をデザインする。
・９月　東京インターナショナルギフトショー　出展（東京ビックサイト）
デザインメーカース研究会主催の恒例のギフトショー出展
デザイナーがモノの売り方を学ぶ絶好の機会であると共に各人の商品アピールの他、例年新規会員獲得のきっかけともなっている。昨年は会場エリアが悪く本年は主催者と折衝する検討をしたい。
・１０月　東日本ブロックデー
外部交流、工場や施設の見学会、学生交流会、会員プレゼンテーション等を計画
・１１月　JIDA 塾
2018 年で 2 回の実施で確かな成果を上げてきた学生向けのセミナー
引き続き学校では実現できない充実した内容で継続開催してゆきたい。
・１２月　NextE coDesign 出展 & エコデザインセミナー（東京ビックサイト）
環境をテーマにしたワークショップと NextE αDesign 展への出展を計画。
昨年初めてビックサイトに会場を移し成功した。
ワークショップと共に学生と JIDA 会員の共催プロジェクト。
・１月　賀詞交歓会
昨年は DM20 周年の受託だったので 2 年ぶりの東日本 B 主催の賀詞交歓会。
これまでアーカイブされた経験を元に充実した新年会を開催したい。

●ギャラリー部会

美術系大学への展示貸出を増進する。

JIDA 会員個展等使用を促進する。（使用促進及び使用率増強のための仕組みづくりを計画する）

●中部ブロック

＜事業方針＞

1．“時代の要望に応える” イベント実施

①新しい事象 / 定番の事象に応える公益事業の推進

②組織の付加価値 / 活動の魅力を伝え、賛助企業 / 会員の増加を進める。

2．“Value Up JIDA” の実践

①広報力強化 / 動員増加のための予算化と実施（中部ブロック事業費の約 10%として、過去ゼロであったことから脱却）イベント毎の広報に注力し、参加者（ブランドの接点）を増やす。

②中部デザイン団体協議会 30 周年事業 (12 団体でのイベント) への参画でプレゼンスアップへ。

3．組織のコンパクト化と活動経費の見直し

①事業委員会※、広報委員会、総務員会の 3 体制（※旧来は 7 事業委員会だった）

②事務局経費の低減

＜事業委員会＞

・研究事業部会

1．Beyond サロン

月 1 定例開催の勉強会、誰もが参加し易く、テーマは「今」興味のある事を設定（全 11 回実施）

2．研究会

テーマによって、体験・講座をサロンとは別で不定期に開催

「クルマと文化とデザイン」トヨタ博物館・クルマ文化資料室見学と講座

2019 年 6 月頃実施　＊ブロック総会と併催

・次世代事業部会

1．学生交流会　2019 年 10 月頃実施

2．卒業展訪問　2020 年 2 月 -3 月頃実施

・交流事業部会：

1．JIDA 中部交流会 in 信州　2019 年 8 月頃実施

2．デザイン講談・新年会　2020 年 1 月頃実施

＜広報委員会＞

年間予定の告知や結果報告に注力すると共に、Web や SNS での情報発信を重視し会員の他、学生や一般の参加を促す。

＜総務委員会＞

・総務：幹事会・ブロック総会等運営事務局

1．幹事会　年 5 回実施

2．ブロック総会　6 月中旬実施

・財務：年度予算計画・決算報告、月度収支報告等、会計処理事務局

中部デザイン団体協議会（CCDO）活動へ役員派遣

理事・副理事、広報、交流、アゥオード、ナイトトーク、協働、新規、30 周年など

●北陸ブロック

1．北陸ブロック総会

6 月中旬（土）、金沢美術工芸大学、附属図書館 LAVC 室

年間事業計画と運営活動に関する検討会。エリアでの検討事項共有。

2．地場産業デザインのトレンド発信

石川、能登周辺の地場産業にスポット　（中期目標として、新潟、長野も入れた北信越の魅力を探る）

金沢デザイン会議協賛（12 月初旬）

3．デザイン教育トレンド発信

卒業制作見学会　福井工業大学、金沢美術工芸大学、富山大学芸術文化学部など各大学の卒業制作展示会場を回り、デザイン教育の傾向を考察する。（2〜3 月初旬）

4．女性クリエイター事業
　４回シリーズの第２回目を実施予定。（7 月初旬）
5．特許勉強会
　特許事務所に勤務するメンバーを中心に、デザイン関係者に向けた勉強会を検討。
6．学生インターン合同プログラム検討
　北陸圏のデザイン系学生対象に、それぞれの大学持ち回りで企業インターンシップが開催できないかを検討。学生の交通費や企業のリクルート活動負担の軽減。
7．広報活動
　北陸ブロックＨＰメンテナンス。タイムリーな情報発信で事前情報 / 結果を公開。
8．渉外活動
　正会員や賛助会員拡大を目指し、イベント企画や地元関連組織との情報交換会を通してJIDA 活動を啓蒙。

●関西ブロック

＜課題と方向性＞
1．JIDA 関西ブロックの活性化
・学生や若い世代が参加しやすいテーマの企画
・他のデザイン団体やデザイン行政との連携による企画推進
・大学など教育機関と連携したイベント企画
2．発進力の強化
・会員や賛助会員との交流の促進

＜ブロック活動＞
1．JIDA 関西ブロック運営委員会　・定例開催 12 回予定
2．総会・開催予定／ 2019 年 6 月 15 日（土）予定
3．大阪勧業展への出展

＜総務委員＞
1．予算の進捗管理
　委員会活動の予算計画、収支管理
2．JIDA 会員相互の交流と情報共有
　運営委員会への JIDA 会員の傍聴参加の呼びかけ、情報共有の場の設定

＜広報委員会＞
1．関西ブロック活動の発信
　サイトでの活動予告、報告、YouTube での動画配信
2．センター広報委員会との連携
　JIDA 公式サイトのコンテンツの充実に向けた関西ブロックの情報提供の強化

＜デザインミュージアム委員会＞
1．見学会の開催
　企業ミュージアムや企業の製造現場などの見学会の企画・実施
2．センター活動との連携
　デザインミュージアムフェスティバルの広報、参加推進
3．デザインミュージアム選定商品の紹介
　大阪デザインセンターショーケースでのデザインミュージアム選定商品の展示更新

＜スタンダード委員会＞
1．CAD を中心としたデザインツールの勉強会、研究会の企画・実施
2．茶道、華道、酒造りなど「日本の文化」の体験や学習会・見学会の開催

＜教育委員会＞
1．デザイン教育フォーラムの開催
　学生デザイン賞のテーマと連動したテーマでのフォーラムを開催

2．JIDA 関西ブロック学生デザイン賞
　第 5 回「JIDA 関西ブロック学生デザイン賞」の企画、募集と表彰を行う
3．関西学生デザインシンポジウムへの参加
　大阪のデザイン 4 団体共催の学生シンポジウム／ 2019 年 10 月（予定）
＜職能委員会＞
1．デザイナーに必要な知識、スキルの修得
　知財をテーマにした勉強会をシリーズで開催
＜JIDA サロン委員会＞
1．ブランド、色彩などテーマ別にゲストスピーカーを呼び、交流を図る
＜フォーラム委員会＞
1．デザインフォーラムの開催
　内容／集客力を高めるため、他団体との連携も含めたデザインフォーラム
2．女性デザイナーフォーラム
　内容／活躍している女性デザイナー、起業家、社会活動家などがスピーカーとなって話題提供し、情報交換、交流を図る

●西日本ブロック

今年度は昨年に引き続き、小規模なりにもテーマとして面白いイベントをフットワーク良く催して行くことに注力したい。運営委員会にも若手の引き入れを積極的に行い、今どきの広報体制の実現と身軽な運用にも臨んでみたい。

1．広島市文化協会―美術部会作品展示会参加
　2019 年 5 月、アステールプラザ市民ギャラリー（広島市中区）
2．ブロック交流セミナー「（仮）インダストリーとは何だろう」
　2019 年 10 月頃、GK デザイン総研広島（広島市中区）
※このほか、近隣他団体との連携の中から JIDA として参画することを実施したい。

2019 年度収支予算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

（単位：円）

	予算額	備　　考
1．経常増減の部		
（1）経常収益		
受取入会金	810,000	
受取入会金	810,000	30,000×25名,3,000×20名（学生会員）
受取会費	26,158,000	
正会員受取会費	15,708,000	36,000×397、永年12,000×118名、（+25名新規、10名退会）
準会員受取会費	126,000	18,000×7名
個人賛助会員受取会費	324,000	18,000×18名（5名+）
賛助会員受取会費	10,000,000	50,000×200口（95社）、+8社−3社
事業収益	23,198,000	
書籍頒布	3,965,000	
検定登録料・問題使用料	1,620,000	
展示・セミナー会費収入	9,589,000	
受託事業による収入	6,450,000	
その他の活動収入	1,574,000	
受取補助金・寄付金等	5,400,000	
補助金・中科目別記載	4,300,000	
寄付金・中科目別記載	1,100,000	
雑収益	101,000	
受取利息	1,000	
その他収益	100,000	
経常収益計	**55,667,000**	
（2）経常費用		
事業費	**49,448,000**	
給料・賞与・手当	9,000,000	
雑　　給	1,728,000	
法定福利費	1,084,000	
旅費交通費	5,804,000	
通信運搬費	1,198,000	
会議費/会場費	1,203,000	
印刷製本費	4,260,000	
出展料・参加費	1,864,000	
材　料　費	5,020,000	
諸　謝　金	3,972,000	
委　託　費	3,395,000	
什器・備品購入費	110,000	
事務用消耗品費	386,000	
水道光熱費	1,918,000	
賃　借　料	5,965,000	
団体諸会費	765,000	
懇親会費	904,000	
租 税 公 課	530,000	
雑　　費	342,000	
管理費	**4,920,000**	
給料・賞与・手当	1,380,000	
雑　　給	400,000	
法定福利費	166,000	
旅費交通費	500,000	
通信運搬費	150,000	
会　議　費	0	
印刷製本費	180,000	
出展料・参加費	0	
材　料　費	0	
諸　謝　金	50,000	
委　託　費	200,000	
什器・備品購入費	0	
事務用消耗品費	100,000	
水道光熱費	350,000	
賃　借　料	1,280,000	
団体諸会費	0	
懇親会費	0	
租 税 公 課	0	
雑　　費	164,000	
経常費用計	**54,368,000**	
当期経常増減額	**1,299,000**	
経常外費用（周年積立金）	400,000	
経常外費用（退職引当金）	313,600	
経常外費用（回収不能金）	300,000	
経常外費用計	1,013,600	
当期経常外増減額	△1,013,600	
当期収支差額	**285,400**	
前期繰越収支差額	5,525,242	
次期繰越収支差額	5,810,642	